

水田用ヒエ「達磨」は苗から本田まで無化学肥料で栽培できます

【1 成果概要】

水田栽培用ヒエ「達磨」は育苗から本田まで無化学肥料で一貫栽培できます。出穂・成熟期などの生育ステージには大きな影響はありません。収量は慣行の化学肥料栽培と同程度です。

【2 効果】

- 1 現在無農薬栽培されているヒエに、無化学肥料一貫栽培という付加価値を加えることが可能です。
- 2 こだわりの食材として消費者にアピールできます。

【3 留意事項】

- 1 有機質肥料入り水稻育苗培土（有機培土）では苗丈が短くなり欠株となることがあるので、適した苗丈に伸ばしてから移植して下さい。
- 2 加温出芽を基本技術とします。その場合、培土表面にカビの発生が見られることがありますが、その後の生育に大きな影響はありません。
- 3 発酵鶏ふんの本田施用量は、化成肥料の窒素の2倍量となることに注意して下さい。

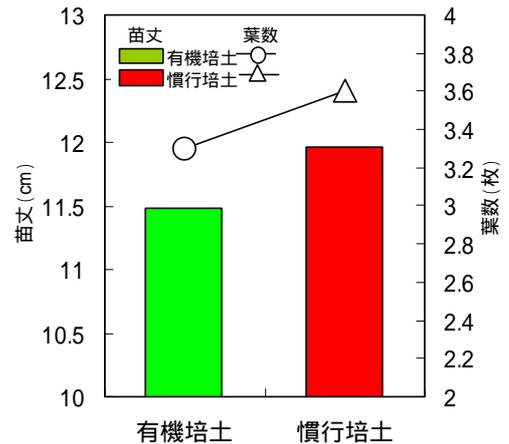


図1. 有機培土と慣行培土のヒエ苗の生育



図2. プール育苗によるマット形成の様子

表1. 無化学肥料一貫栽培と慣行栽培の収量比較（平成18年度）

育苗培土	本田肥料	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	子実重 (kg/10a)	対慣行比 (%)	千粒重 (g)	対慣行比 (%)
有機	発酵鶏ふん	8/26	10/16	106	447	113	4.24	99
慣行	化学肥料	8/26	10/16	100	398	(100)	4.30	(100)

本田施肥量は10a当たり現物で発酵鶏ふんが195kg（窒素成分量7.2kg）、化学肥料が30kg（窒素成分量3.6kg）である。

【4 適応対象】

- 1 地帯
 - (1)岩手県下で「達磨」の水田栽培を行っている地域
 - (2)発酵鶏ふんなど、有機質資材の入手が容易な地域
- 2 対象者
 - (1)ヒエに新たな魅力を付け加えたいあなたへ

【5 導入コスト】

- 1 資材費は慣行に比較して10a当たり2,683円ほど高くなります。
 - (1)培土費

無化学肥料一貫栽培	4,547円
慣行栽培	3,760円
 - (2)本田肥料費

無化学肥料一貫栽培	4,511円
慣行栽培	2,615円